

# 七飯老大ニュース

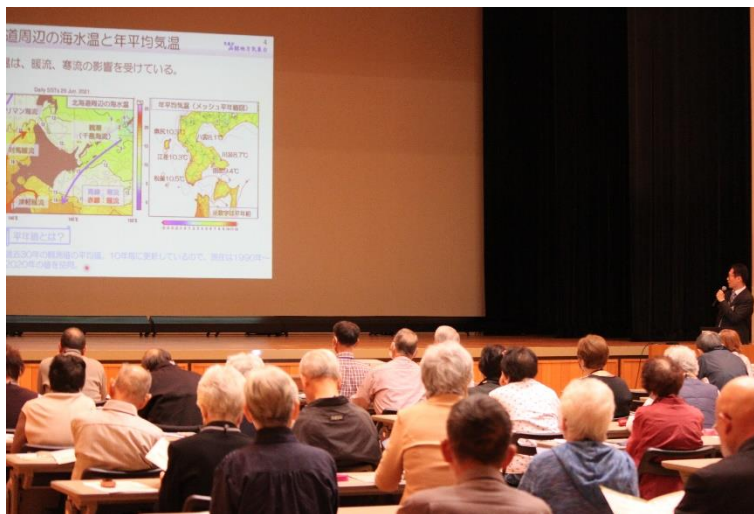
2024. 6. 10 発行:七飯老人大学事務局

## 「新入学生歓迎会」(5/30)は大変盛会でした。

10名の新・再入学生を大歓迎する会です。会食しながら、たくさんおしゃべりし、大いに親睦を深めました。先輩学生からは、「新入生のあいさつが素晴らしく、自分も勉強になりました」、「芸能発表には、新入生も積極的に参加してとても良かったです」の声。新入生からは、「先輩たちのいろいろな芸能発表とおしゃべりを楽しみました」、「演芸の太極拳では、新人ながら参加させてもらいました」の声。老生みんなで作り上げた楽しい会です。

会の準備と運営に自治会行事部、会計部の皆さんが尽力しました。

## 第5回講座「気象を学ぶ」(6/6)



函館地方気象台の出前講座と連携した講座です。講師は、観測予報管理官付技官の長尾一輝氏と水害対策気象官の福島広和氏のお二人です。

長尾氏は、「函館地方気象台の歴史と観測について」お話しされました。

冒頭、「函館地方気象台は、日本で何番目に古いですか」というクイズが出されました。答えは・・・。「函館地方気象台の前身である「函館気候測量所」は日本で最初に気象観測を始めた観測所で、明治5年から観測を開始しています」。つまり、「日本最初(最も古い)」ということです。ちなみに2番目は明治8年の東京です。

福島氏は、「渡島地方の気象について～これまで、これから～」と題しお話しされました。「気候変動」によって気象災害が発生・甚大化していること、生態系にも影響が出ていることは、私たちも日々の生活の中で実感していることです。

福島氏は、気温、雨量、積雪の観測データに基づいた「これまで」と将来予測(これから)を分かりやすく解説してくださいました。21世紀末には、渡島地方で年平均気温が約4.7℃上昇、真夏日が24日程度増加という予測(\*追加的緩和策を取らない場合)には、気候変動の深刻さを改めて認識しました。

講演後、多くの質問が出されました。気象は、私たちの暮らしや命に密接に関わることであり、関心が高いことがわかりました。

### <受講者のふりかえりから>

毎日のように地球温暖化のニュースが流れていますが、最近は身にしみて感じるが多くなりました。改めてデータの表を見ると確実に変化していることがわかり、大変勉強になりました。

## 七飯老大新入生歓迎会

## 七飯老大新入生歓迎会



芸能発表では、カラオケのほか、クラブ活動や学びの成果、また、個人の特技も披露され、いつものことですが、バラエティに富んだ素晴らしい発表の連続でした。

